



平成19年11月1日

群馬県立  
太田工業高等学校  
同窓会  
0276 (45) 4742  
株イーピーエス

### 同窓会員の皆様へ

### 本部の活動報告

同窓会会長 大関 貞夫 (E)



会員の皆様如何お過ごしでしょうか。日頃より同窓会活動に対してご理解とご協力をいただき有難うございます。会報第三十一号発行以降の最近の主な活動を紙面お借り致しまして会員の皆様に簡単に報告しておきたいと思いません。

平成十七年度の開校記念日の講師に一期E卒蟹和氏、平成十八年度の開校記念日講師に二期M卒森川氏に御骨折り頂きまして、忙しい身体ですが都合つけて在校生の前で貴重な体験談を講演していただきました。又、今年度は二期M卒神谷氏が開校記念日の講師の予定となっております。なお開校記念日の講師になっていただきました方々には同窓会本部より参事役を委嘱致しまして本部に代表一名選出して頂いております。このほかにクラブ活動助成金、県大会以上の上部大会に出場する選手の方々に壮行会で些少の経費援助

もいたしております。昨年度と今年度は太田市内のホテルで同窓会総会を開催致しました。又、総会の後には懇親会を開催して多数の会員の方が出席していただき成功裏に開催できました事を報告しております。なお来年度も総会を計画しておりますのでネット等確認をして頂きまして参加をお願い致します。又、会報第三十二号発行の件で有りませんが、卒業生の減少と会員の増加により毎年会報発行することが予算上困難となりました。経費節約の考えからネット化し常に情報が閲覧出来るようにしました。現状はまだ不十分で有りませんが、出来る限り良い情報を提供できるように本部役員一同努力致しますので宜しくお願い致します。なおクラス会等行事を開催いたします。たまたま幹事さんは大変だと思えますが写真やコメントを添えて本部に送付していただけたら助かります。同窓会のホームページに載せますので宜しくお願い致します。その関係ですが、地域や職場で支部を結成していただきまして、お互いの情報交換等に利用していただきたいと思います。

会報が皆様の御手元に届く頃には紅葉の季節になるかと思えます。健康には十分注意をして頂き、職場や地域でご活躍されることを御祈念致します。

### 太工高教育

### 同窓会誌発刊に寄せて

校長 深町 裕



現在、幼児、児童・生徒、青少年の多くは、感性の面で、知識は人一倍だが、生活経験が不足して、感覚的なことが未熟である。外界に対する細やかで深い認識に欠ける。五感の反応が大雑把で鈍い。強く激しい刺激には反応するが、弱く細やかな刺激には応えない。外なる五感が鈍くなれば、内なる五感といえる感性の働きも弱くなる。一般的な生命エネルギーの低下と、自我機能の未成熟さを露呈している、と言える。

ところで、感性や共感性、気持ちの動きや思考の働き、更には責任感等々は、基本的には発達段階に応じて自から形成されていくものである。何をどう感じたらよいか、どういう場合にはどういったことを教えるのは可能である。しかし、感性や共感性等は、身に付けた知識・理解・技能を「道具」として、自分の責任において有効適切に使いこなしていく「主体」の育ちが伴っていないと、どうにもならない。

それでは、主体(自己)を育てるにはどうしたらよいか。どうか。「自己」とは、その人が何をどう感じ、何に胸躍らせ、何を大事なものと思っているのか、という内面世界のありようのことである。「自己」の在り方とは、そ

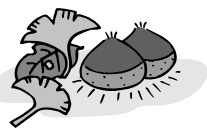
の人の境涯の在り方の問題であると言っている。こうした視点に立つて教育実践の工夫をする場合、具体的には、①美しいもの、感動的なものとの出会い。②固定観念・既成概念への揺さぶり。③課題追求や読書等への没頭。④安易に迎合・同調しない姿勢の習慣付け。⑤異質な感覚や発想に気付き、相互に尊重し合う話し合い。⑥自分の活動や気付きの振り返り、自己評価。⑦自分の実感・納得・本音の世界の探求。⑧困難で嫌なことから逃げないで、真つ向から取り組む対処的姿勢の習慣付け、などが考えられる。

以上、列挙した事項は、いずれも「内面性」の教育を目指す上で重要なものとして強調されてきたものである。教育の究極的な目標は、人間の在り方そのものの成長にある。自分自身がよって立つ原理を内面に持つているかどうか、真の「個」としての実体を持つているかどうかの決め手になる。「心の教育」とは、自立した人間としての核と基盤を育てることである。

幸い本校は、他者との、自然との、文化との好ましい触れ合いが存分にできる場である。同窓会の強力な支援を得て、家庭、学校が今まで以上に連携して、太田工業高校の「心の教育」を推進していきたい。

結びに、同窓会各位のますますのご多幸とご健勝を祈念し、校長あいさつといたします。

### 心の教育



# 処暑に思う

前校長 菊地 丞示

今年の夏は、ことの外厳しい暑さとなり、処暑が過ぎても一向に猛暑が衰える気配がありませんでした。同窓会の皆様におかれましては、この酷暑にもめげず、ますますご清祥のことと存じます。

私が、校長在任中最も留意しましたのは、生徒の安全管理でした。保護者の皆様方からお預かりした子供さんたちを太田工業高校という教育の場とおして心身を成長させ、社会に有為な人材として送り出すことが学校の責務であり、学習活動はもとより部活動の充実のためにも力を注ぎました。私の意を汲んでくれた先生方の熱心な指導と同窓会のご支援により着実に成果をあげることができましたが、活動が活発になればなるほどそれに付随して事故等が発生する確率が高まります。この事故を如何に防止するかということに日々気を遣いました。特に、昨今は地球温暖化が進む中、十数年前に比べ年間の平均気温が上昇し、これまで体験したことのない環境になっています。今夏も八月に入り国内観測史上最高の気温を記録するなど猛暑が日本列島を

襲い、全国各地で熱中症により亡くなられた方が相次ぎました。ある中学校でも、部活動練習中に倒れ亡くなるという痛ましい事故が起きました。これまで教育現場におりました私にとつて身につまされる思いであり、私が太工に着任した三年前を思い起こしました。この年も平均気温を上回る猛暑日が続き、全国各地で熱中症患者が続発しました。太工でも部活動練習中に倒れ、救急車で病院に搬送される生徒ができました。

これまで日本では、この種の症状に対して鈍感なところがありました。その実、私が野球部の顧問に関わっていた二十数年前までは、練習中に水を飲むことはご法度でした。その最たる理由は、精神論が主流の時代で苦痛を乗り越えなければ夏は勝ち抜けないという考えが強かったためでした。今思うと何とも非科学的でありました。幸い当時は今のような猛暑日も少なかったためか大事に至る生徒がいませんでしたが、全国的に毎年何人かの高校生が帰らぬ人となっていました。学校を預かる者として、無限の可能性を持った子供たちが十代でその道を絶つてしまふようなことは決してあってはならぬとの思いで三年間努めさせていた、だきました。幸い私の在任中、不慮の事故

によって最悪の事態に至った生徒もななく五九〇名を同窓会の一員として送り出すことができましたことは私にとつて最も安堵したことであります。

終わりに、三年間にわたり大関会長さんはじめ役員並びに会員の皆様方から温かいご支援をいただきありがとうございます。四十五周年を迎えた太工同窓会のますますの発展を祈念し、筆を置かせていただきます。

## 代表参事に就任して

代表参事 阿久戸忠雄 (1M)



この度、同窓会役員に『参事』という役職が新たに誕生しました。

大関会長の発案で、「創立記念日に記念講演をした卒業生の方で同窓会に対しての助言をする」という趣旨だそうです。一期生ということで一〇名の代表として役員末席に加えて頂きました。多少なりとも母校のお役に立てることを光榮に思っております。振り返りますと、平成一三年度に「ゼロからの出発」という演題でお話をさせて頂きましたが、その原稿

の作成中に何度も在学中の思い出を振り返りながら書き進めました。

大変厳しかったあの数学の授業、何とも嫌いだった(苦手だった)化学、結構楽しかった実習、同級生との三年間、マラソン大会、運動会、修学旅行、痛かった恩師のげんこつ・・・その何れも現在の自分の支えとなる礎を作ってくれましたことは、紛れもなく事実です。そんな思いを胸に、在校生の諸君には、是非この三年間を悔いのない三年間にしてくれるようお願いを込めて、話をしたと記憶しております。

自分は現在、株式会社アミダという会社の代表取締役をしておりますが、その会社の経営に当たっては、太田工業の三年間の学びや遊びの中にその原点が有るように思えます。創立記念日の講演でもさわりに触れましたが、会社の倒産という辛い経験を味わっております。演題の(ゼロからの出発)はそこから出ている訳ですが、幸運にも立ち直れたのも、太田高の一期生として卒業出来たお陰だと思っております。一期生も早、還暦を迎え、退職をされたり、又、転職をされたりしています。そんな折に母校の同窓会のお役に立てることが巡ってきたのも何かの因縁と、微力ながら出来ることを精一杯やらせて頂きます。

## 時の流れの速さに思う

林泊支部 小林 三重 (8E)



母校太田工業高校を卒業してからはや三十五年あまりが過ぎようとしています。しかし私にはその実

感がありません。卒業したのは、つい最近の事のような気がしてなりません。特別な事をしたわけでもなく、ごく普通に結婚して三人の子供に恵まれ平凡な家庭をもち子育てが一段落したらもうこの年になっていました。

生前父がよく口にしていた「人の一生なんてあつとという間だよ」という言葉が身にしみます。

一つ一つ思い起こせば私なりに山あり谷ありの人生でしたが、ただ夢中で過ごしてきてしまったようです。小さな店の自営業という事で仕事に縛られる事が多く、自分の時間があまり持てなかつたせいかもしれません。十年以上前の話になります。仕事がまだあまり忙しくないころ二度目の甲子園を目ざして野球部のコーチをたのまれ、後輩たちと汗を流したことがとてもなつかしく思い出されます。

このまま残りの人生を仕事仕事で終

わりたくないと思ひ昨年十一月に店を閉店しました。そして今はパートに出ています。土曜日、日曜日は、ゆっくりと休ませていただき、平日でも都合の悪いときは休ませてもらえるため、以前から思うとかなり精神的にゆとりが持てるようになりました。これからは、あくせくと働かないで自分のペースでゆっくりとスローな人生を歩みたいと思ひます。

## 葦川支部だより

支部長 橋本 賢一 (4M)

卒業して三十九年。団塊世代と言われ、私もあと二年で企業定年を迎えます。時代の流れの中で太工も大部変わってきていると思ひますので、私が在学中の頃の昔話を少し書いてみます。

入学は一九六五年(昭和四十年)。前年にオリンピック東京大会を終え経済成長期の中でしたが、一家に自家用車一台の時代はまだまだ先の頃。太工先生方も自家用車通勤が主流となってきたように思ひます。当時のニッサンブルーバードが格好いいなあと思ひました。

ピートルズ、ローリングストーンズ、

ベンチヤーズ等、多くのエレキサウンドグループの影響で、国内ではグループサウンズの全盛時代。長髪にラッパズボンが流行。当時の生徒は全員丸坊主頭に制帽。生徒総会では頭髪自由の議題で、賛成、反対の活発な討論が体育館で行われました。もちろん賛成派が多かったのですが、在学中には実現しませんでした。

修学旅行前には、ズボンの検査があり、スソの広過ぎるのはダメで、広過ぎると直させられました。

当時は「エレキギターをやる奴は不良」と一部の大人たちが決めつけていた時代。そんな中、工業祭で同級生グループが、エレキギターで演奏し、歌っていたのを覚えています。

実習では計算尺が使われていて、検定試験も受けました。現在の電卓のデジタルに対して、計算尺は誤差を認めるアナログ物でした。おおらかさのある時代でした。

太工生の卒業生は一人を超えました。OB会として、同窓会葦川支部があります。現同窓会長と現副会長の両氏が築き上げてきた支部です。

年一度支部会を市内のホテル等で行っています。校長、教頭、事務長皆様方も出席いただき、太工の今の姿、生徒たちの活躍等の話を聞くことができ



ます。その後年令を超えた参加者の懇親が始まり、会社員、自営業、経営者等様々な職種の方々の情報交換ができます。そして、近況や趣味等も含め話の輪ができます。

こんな葦川支部ですが、地区にこだわらず近くの皆様の入会をお待ちしております。頼りない会長の私ですが、今後ともよろしくお願い致します。

# 『やる気と努力』で『夢を現実』に

同窓会参事 森川 道雄 (2M)



十九年度から同窓会の参事という役員を担当することになりました二期生の森川です。

この十九年三月で、述べ一万八百余名を超える卒業生が巣立ち、社会人として会社や職場で日本のものづくりの現場をささえている一大勢力となり、又、地域社会でも大きな影響力を発揮している同窓生もおり、それぞれ充実した人生を送っているものと思います。これも高校時代に培った知識と気力とが、その後の努力で開花結実したもので、多くの仲間が社会の一員として成長していることに感慨深いものを感じます。

今年で一期生は六十一歳となりサラリーマンを卒業して第二の人生をスタートした人や、経営者として日夜奮闘している人、地域社会に貢献している人等々、二十期〜三十期生は仕事と子育てに奮闘中、一方卒業したばかりの新社会人は希望と現実とのギャップを痛感、等々、同窓生も多様になってきております。

私事ですが、高校卒業以来四十年間富士重工業(株)群馬製作所に勤務、多くの上司・先輩・同僚・部下に支えられながら職務を全うすることが出来ました。その後、関係会社の桐生工業(株)で仕事をしておりますが、仕事も遊びも一生懸命やってきました。仕事相手の要望、すなわちお客様の要望に一〇％以上答えるにはどのように努力し結果をだすか。この積み重ねがお客様や組織から信頼され、その結果で現在があるものと思っております。『目的・目標に向かって一生懸命日々努力』が『夢を現実にする』方法と確信しています。

ある本に、人間の能力の差はせいぜい五倍しかない、普通の社員の能力差はせいぜい二倍程度、差があるのは『意識とかやる気』、これは人によって百倍から千倍の差があると書いてありました。その日その時の課題・目標を確実に達成するぞという『やる気』とその結実の連続が人生での成功につながるものと思います。

同窓生のみなさん『やる気と努力で夢を現実』

同窓生が産業界や地域社会で存在感を発揮していることが学校や在校生にとって何よりの贈り物、頑張れ同窓生最後に、太田工業高校の益々の発展

と同窓会会員皆様の御健勝と御活躍御多幸をご祈念申し上げます。

# 職業と環境について

同窓会参事 蟹和 顧馨 (1E)



先日、電気科B組のクラス会を開催しました。高校当時の面影は残っており、卒業時、学校より就職のお世話をいただき、そのまま定年までお勤めされた方も多数いました。当時、先輩は無く、先生方も真剣に校風をつくることに懸命であったことを記憶にあります。現在は新しい土地で新しい建物で、清潔な環境で勉強に励んでいる事とおもいます。卒業生も多数おられるし、同窓会も学校と有機的な連携を保ちつつ活動しています。卒業生も各種の職業に就き、活躍されております。

長年同じ仕事をしていると、どうしてもその人の人生観というか世界観が身にこびりつき、当然ながら性格までが同一化され、その人の個性となって他人にうつるようです。坊主をやっている、時々気持ちのいいおもてなしを受け、こんなに丁寧な

接待を受けていいものか不安になる時があります。また、性格も知らず知らずに侵されて気のいい坊主になっていくようです。職業からくる性格はなかなか気がつかないところで形成されているようです。

死ということについても、ある程度感覚というか考え方が異なってきました。「死」を恐れても仕方なく、どなたでも一度は死ななければならず、もがいてもどうにもならない。お迎えが来たならば素直に往くのがよいのだらうと思っております。臨終の際はとても痛く辛いものとおもいますが、肉体は良く出来ていて、気は遠くのほうにいて、痛さ・苦しさは無くなるようです。気がついたら仏界に入っていた、なんてことも知れませんが。若い高校生では「死」なんてことは遠く、他人事と思うかもしれませんが、生死は表裏一体です。

クラス会では、物故者数名、連絡不明等もあり、六十歳を過ぎて、うまく人生を渡ってきた人、やっと渡ってきた人など様々な様子も伺えました。みんな真剣にその場その場を考えて人生・社会をくぐってきたと思います。結果として、可もなく不可もなく平凡な人生を歩むことが、一番すばらしいものに思えるようになりました。

## 総会を終えて

同窓会副会長 中村 康美 (2MP)

今年の夏は、各地で記録的な猛暑になり、気温に対応できずに熱中症で倒れた人達が随分いたようです。これからの地球の変化に人間がどこまで対応できるかと考えると非常に不安になります。さて、太田工業高等学校の第二回総会が平成十九年七月七日に太田ナウ・リゾートホテルで行われました。今年からは、開校記念日に講師を務めてくださったOBの方々が参事というかたちで役員になられた事もあり、昨年よりも若干参加者が多かったと思います。総会も厳粛のうちにすべての議案が承認されました。総会後の懇親会では、雰囲気も変わり、近況やら昔話にと時間を忘れていたようです。一期生は、世間で言う団塊の世代で還暦を迎えたわけで、やっと同窓会活動が活発になるのではないのでしょうか。私の地域では、OBを中心に子供達の為に大人が何をしてあげられるか、今やらなければならない事は何かと考える会「沖楽会」を十五名の会員でスタートさせました。叱る時には、きつちり叱れる近所のおじさんになろうと言うのが会の趣旨です。それには、自分の襟

を直すことと平行して子供達と心を打ち解けるようにならなければなりません。そこで育成会と協力して子供達とおじさんのふれあう会を開きました。

バーベキューやゲーム、アトラクションでは、チンドン屋さんに参加いただき、なつかしい曲や流行歌などで大変盛り上がりました。又、この地域に伝わる祇園ばやしも子供達が演奏しました。子供達におじさん達を知ってもらう行事としては十分すぎる一日でした。又、その後、バス旅行も開催しました。交流はまだ続きます。ある日、ある子供に会いました。その子から「おじさんこんにちは」と言われた時、最高の気分になりました。そして二言三言話をしました。もし機会があれば真から叱ってやろうと思いましたが、教育は、家庭、学校とありますが、我々は、地域教育に力を入れていきたいと思っています。これから益々地域教育が必要になってくると思います。最後になりましたが、同窓会員皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げますとともに、太田工業高校の発展をご祈念申し上げます。

## 「もの造り」を

## 支える我ら同窓生

南万徳 代表取締役 鈴木 信昭 (13M)



銀色の三角屋根の体育館を金山の山頂から見つけることができました。卓球部での練習では、豪雨

になると雨音が体育館に大きく響いたことが懐かしく思い出されます。

当時の想い出は三年生のときに合同ホームルームを太田女子校とやり、太田女生が太田工業を訪れました。話し合いやバレーボールの試合、そしてメイソンはカッパルになって工業の実習室を案内しました。また、工業祭ではクラスでイベントを組み、ジャンケンロボットを作製したり、旋盤で製造したアークセサリーを販売しました。

卒業後は東京の製菓専門学校で学び、家業の団子や寿し、赤飯等の食品製造販売業に入りました。商売を継ぐのに何故、工業高校に入ったのかというと、商売と言っても家業は製造業です。手造りとは言いつつも、製造機械も何台もあることから機械科を選びました。もう卒業してから三十年が過ぎまし

たが、音楽のテストに校歌を暗記したのが功を奏したのか「赤城榛名の山そびえ…」の校歌と共に、太田工業高校卒業生としての自覚と誇りは今でも大切にしております。

さて、今年、平成十九年七月の同窓会総会に初めて出席させて頂きました。正直、参加者は少なかったのですが、母校を愛し、更なる発展を願う気持ちが溢れる総会でありました。

卒業生のみなさん、時代は速さを求めています。インターネットでの情報交換は瞬時です。

しかし、どんなに情報が溢れても、資源のない日本では「もの造り」が原点であります。さらに、値段だけで海外からもものが雪崩れ込む時代から、安全で環境に配慮した日本人の「もの造り」が見直される時代へと変化しつつあります。

太田工業の卒業生はこの「もの造り」の第一線で活躍し、支えております。是非とも誇りと使命感をもって更なる飛躍を目指そうではありませんか！

そして、私もそうではありますが、同窓会事業に積極的に参加し、情報交換をする中で、太田工業高校同窓会の和を広げ深められるよう頑張つてまいります！



### 東電太工の活動について

東電太工会 会長 正田 英雄(9E)

会報への投稿は二回目になります。先ず、新潟中越地震で、柏崎刈羽原発が停止し、今夏電力ピンチとなり、省エネ、節電にご協力いただきました。ありがとうございます。ご不便を掛けお詫び申し上げます。

さて東電太工会についてご紹介いたします。東京電力在籍をしたOB並び社員を構成員として、六十二歳を筆頭に二十四歳まで、会員八十三名の仕事を愛した先輩後輩の絆を尊び、酒の好きな太工会です。

太工会は昭和五十年発足し、会員十名から始めました。初めは飲み会と温泉めぐりの的なものでした。が、全名簿を完成し、今日に至り、三十二年を経過しました。

また太工同窓会本部役員に金井君を送り、本部との連携を図っています。今後ともよろしくお願いいたします。

私達東電について一言述べさせていただきます。

一つ目は、電力自由化の波の中にあり大変厳しい時代にあります。会員は元気に誇りを持って、技術屋としてモチベーションを維持しながら、電力の

安定供給に日夜頑張っています。

二つめは、群馬県内の水力発電設備四十カ所、変電設備八十カ所、配電設備電柱四十万本の運転、保守管理の役割を担っています。それぞれ技術技能を学び、一人前となり、さらに技術技能を磨き、後輩を育て、技術を継承し、どの企業でもやっていると、思います。近年特に、技術継承が叫ばれるようになり、東電は、全社を挙げて技術技能競技会を実施しています。今年で四年目を迎えています。群馬支店は全社でもトップクラスの成績を収めています。日頃、努力の蓄積が重要だと思えます。

三つ目に、ここ五年間、母校より入社希望者が少なく、危惧しています。ぜひ東電に入社希望してください。ようお願いします。

最後になりましたが、電力の安定供給をお願いします。会報への投稿といたしたいと思えます。



### 太工一期生、電気科B組クラス懇親会開催

平成十九年六月二日午後六時三十分より太田ナウリゾートホテルにて開催しました。過去に二回くらい、小集団の懇親会はあったのですが、クラス全体の懇親会ははじめてでありました。

昭和四十年三月に卒業して以来の事で、実に賑やかな会場となりました。名前と顔が一致しないのですが、会話を重ねていくうちに過去の記憶がよみがえってくるというのか、高校時代の思い出がよみがえり、楽しいひと時を過ごさせていただきました。クラスに大関貞夫同窓会長がおり、ご挨拶をいただき、華を添えていただきました。卒業時は五十二名、故人は四名、当日の出席者は二十九名となりました。参加者

より今後、毎年開催してほしいとか、一泊で開催してほしいとか意見がありました。

発起人 関和男 蟹和顧馨

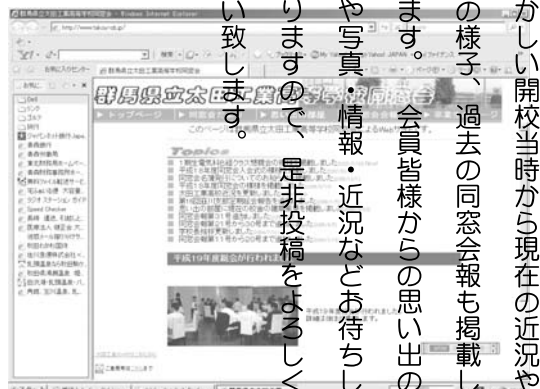


ホームページURL <http://www.takou-ob.jp>

メールアドレス [m-charge@takou-ob.jp](mailto:m-charge@takou-ob.jp)



懐かしい開校当時から現在の近況や、総会の様子、過去の同窓会報も掲載しています。会員皆様からの思い出の、記事や写真・情報・近況などお待ちしておりますので、是非投稿をよろしくお願ひ致します。




学校だより

職員異動

平成十七年四月

飯塚 正弘教頭 退職  
 須永 章久先生(機械) 退職  
 和田 博行先生(事務) 前女へ  
 関口 哲生先生(工化) 新田曉へ  
 青山 敏之先生(電気) 桐工へ  
 新井 博先生(機械) トルコ派遣  
 藤生 卓也先生(工化) 高工へ  
 今泉 稔先生(機械) 伊工へ  
 町田 邦彦先生(国語) 館女へ  
 松本 文夫先生(数学) 伊勢崎清明へ  
 藤間 博人先生(情報) 洪工へ  
 森江 敦子先生(事務) 板倉中へ  
 中野 勇治教頭 伊工より  
 木村 元則事務長 桐女より  
 木村 典也先生(機械) 伊工より  
 大澤 滋太郎先生(電気) 桐工より  
 村岡 祐介先生(国語) 新採用  
 石井 裕先生(電機) 新採用  
 島方 宏明先生(機械) 新任  
 須田 博文先生(数学) 新任  
 大澤 孝幸先生(機械) 新任  
 矢島 賢一先生(電気) 桐工より  
 新居 知恵先生(事務) 沼女より

平成十八年四月

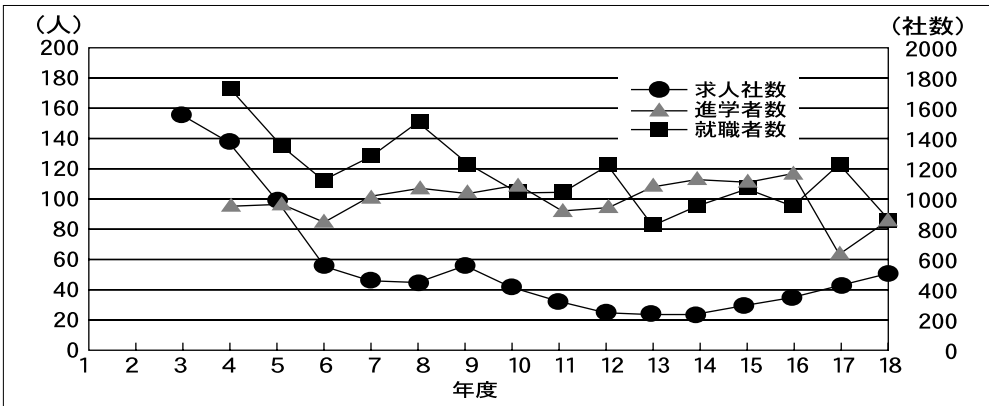
寺田 幸夫先生(電気) 退職  
 長谷川 稔先生(電気) 退職  
 山口 卓治先生(機械) 館商工へ  
 鈴木 雄介先生(社会) 市前橋へ  
 高畑 隆悦先生(機械) 任期満了  
 島方 宏明先生(機械) 洪工へ  
 須田 博文先生(数学) 伊勢崎へ  
 新居 知恵先生(事務) 太田養護へ  
 渡邊 真一先生(機械) 洪工より  
 大久保哲也先生(機械) 伊工より  
 小林 裕貴先生(数学) 新採用  
 入澤 悟先生(社会) 前工より  
 金子 純也先生(電気) 伊工より  
 大塚 和美先生(事務) 伊工より  
 平成十九年四月  
 菊地 丞示校長 退職  
 松井 福治先生(国語) 退職  
 泉 正雄先生(体育) 西邑楽へ  
 櫻井 敏弘先生(情報) 高工へ

高橋みゆき先生(家庭)

栗林 和也先生(電機) 新田曉へ  
 関口 省人先生(英語) 館林へ  
 川田 亮一先生(理科) 高女へ  
 松嶋 隆広先生(体育) 伊工へ  
 大澤 孝幸先生(機械) 任期満了  
 大塚 和美先生(事務) 盲学校へ  
 田島 瑞樹先生(司書) 太田フレックスへ  
 深町 裕校長 吉井より  
 冬木美登里先生(家庭) 太西女より  
 田島 準逸先生(電機) 桐工より  
 神津 文夫先生(情報) 高工より  
 金子 繁先生(国語) 太市商より  
 前田 貴之先生(英語) 藤女より  
 佐藤 匡樹先生(体育) 伊工より  
 佐藤 琢哉先生(理科) 新採用  
 原田 優樹先生(体育) 新採用  
 飯塚 祐二先生(電機) 新任  
 松本 浩一先生(電気) 新任  
 新井 玲子先生(司書) 館林より  
 藤田 康江先生(事務) 渡瀬養護より

進路概況

(平成2年) 平成18年



3年生生徒数 180名

就職	民間企業	市管内	40	進学	大学	国公立	
		県内	31			私立	28
		県外	10			短期大学・大学校	2
就職	縁故	1	就職・進学	専門・各種学校	54		
	自営	2		進学希望者合計	84		
	公務員	2		就職希望者合計	86		
				未決定	進路希望なしを含む	7	

合計 180名

平成18年度 進路状況 および就職状況



# 同窓会会員名簿 ~2007年度版~ 平成19年12月完成予定

**予約受付  
締切間近!**

同窓会会員名簿

**1冊 3,480円**

※消費税・振込手数料・送料 含む  
※別途、ご案内をお送りいたします。

★通常購入の他、以下の申込方法もあります。  
〈賛助金〉

**1口 10,000円(名簿1冊進呈)**

※広告欄の冒頭に芳名を掲載いたします。

〈広告〉

**1/8頁 25,000円~(名簿1冊進呈)**

※ご予約の方は、詳しいご案内をお送りします。

## 申し込みは下記フリーダイヤルで

★個人情報保護のため、限定数量での予約販売となります。

★ご予約の方のみ詳細にてご連絡いたします。

★同封の振込用紙でお申し込み下さい。

★ご提供いただいた情報は同窓会事業以外の目的では使用いたしません。

お問い合わせ

**フリーダイヤル 0120-10-9899(内線30) 平日10:00~16:00**

### 編集後記

(木村記)

記録的な猛暑の続いた夏も終わり、会員の皆様は如何がお過ごしでしょうか。同窓会事業の柱の一つである総会の開催も本年度二回目を迎え、多くの皆様の参加を頂きました。この総会も継続して開催するには役員一同、更なる工夫が必要との声も多く、来年度の開催にむけては、開催期日を本年同様七月第一土曜日で開催する計画であります。会員の皆様の参加を期待しております。

最後になりますが、会報発行に際し、恩師を始め会員の寄稿に感謝申し上げます。

